

# なんでやねん

## 公民的分野で何を学ぶのか

いよいよ公民的分野の学習に入ります。この「なんでやねん」では、公民的分野で学習する目的を説明しておきます。

義務教育の最終段階で学ぶのが公民的分野です。公民的分野では、これまでに学んだ地理的分野と歴史的分野での学習内容をふまえて、より深く現代社会のことを学んでいます。一言で言えば、君たちの一人ひとりが、民主政治の主人公として、基礎的な教養を身につけて中学校を卒業することが目標です。



内容的には、社会科(公民的分野)で学んだことが、自分の行動(生き方)の力になるように、①**基本的人権の尊重**と民主政治の仕組みとの関係を日本国憲法を中心に学びます。②さらに、日常生活と**経済**(お金の動き)との関係、様々な仕事と**産業**構造(仕組み)との関係を学びます。③そして、日本の暮らしは**地球規模**で展開されている**国際社会**との関係で成り立っていること、及び国際社会にどのように関わっていくべきなのかを学びます。

私(倉橋)の授業の目標は、君たちが中学校を巣立っていくときに、君たちが自分の**知性・理性**や感性で、現実の社会の問題点(あるいは変化)を読み取るための基礎的な学力を身につけることです。社会科の学習が、君たちのよりよく生きる力になったり、**生き抜くための知恵**を働かせることに役に立つことを願っています。

そのために、**基礎的な知識**を確実に身につけることと、自分の頭で考えることを、これまで(歴史の授業)以上に君たちに求めています。「覚える」ことを目標にするのではなく、知ったこと(知識)を使って「考える力」を自分で鍛える覚悟を持って下さい。「考える力」は、自分で考えない限り身につかないからです。

君たちはこれから生きていく上で、自分がどんな行動を取るべきかを迫られる様々な場面に出会うでしょう。そして、そのような場面で、自分のとった行動に責任を持たなければなりません。責任を取るとき、自分で考えて行動した結果でないと、自分で納得がいかないでしょう。だから、この公民的分野の学習は非常に重要な意味を持っていると私は考えています。